

施設名	ソラストせんじゅ保育園
施設所在地	足立区千住仲町18-6-2 F
法人名	株式会社ソラスト

1. 活動のテーマ

<テーマ>

環境（水の不思議について体験しながら興味をもつ）

<テーマの設定理由>

日常生活に当たり前にある水に関して興味をもち知りたい気持ちを引き出していく

2. 活動スケジュール

手洗い お湯遊び シャワー 水遊び 氷遊び 色遊び 製作（水スタンプ）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

プール、水遊び道具（コップ、じょうろ）、氷、カラーセロファン、透明のビニール袋、絵の具、たらい プルシート

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

お湯遊び 水を袋に入れたスタンプ シャワー 水遊び 氷遊び
セロファンを水に浮かべると色が変わる

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

毎日の習慣で手洗いは慣れていたが制作で手が汚れると洗い流す様子を見て「きれいになった」と喜んでいた。プールやタイにお湯を張り触れることをしてみると「あったかーい」と温度を実際に感じていた。シャワー活動が始まると汗を流し気持ち良さを全身で感じる様子が見られた。水遊びではコップに水を入れて流したり、じょうろで上から流れる水に手を伸ばして触れる姿が見られた。氷遊びでは冷たさを感じながらも手に持って「固いね」「お水よりもっと冷たいよ」と驚く表情を見せていた。冷凍庫で固まったよと保育者が説明すると興味をもって「なんでなんで」と質問している姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

毎日の生活の中で手を洗い水に触れることで、子どもたちは温度の変化や色の変化を子どもが気づき楽しめる様子が見られた。手を洗うときれいになることを知っているため、野菜洗いに興味をもち野菜もきれいにあげようとつなげることができた。子どもたちで不思議な気持ちを見つけ、保育者に伝えたことがきっかけで水に関する興味が湧き今回遊びにつなげることが出来た。さらに発展していく内容で今後の保育にもつなげていきたい。

施設名	ソラストせんじゅ保育園
施設所在地	足立区千住仲町18-6-2 F
法人名	株式会社ソラスト

1. 活動のテーマ

<テーマ>

環境【水と氷の差を感じながら感触を楽しんだり形の変化を楽しむ】

<テーマの設定理由>

大好きな水遊びから家庭内など身近にある氷を実際に触ってみることで変化を感じれるように設定した。

2. 活動スケジュール

水遊び 氷遊び シャワー（もしくは体拭き）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

プール たらい 製氷機 水 氷 カップ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

シャワー 水遊び 氷遊び

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

夏の間シャワーを毎日行うことで水やお湯などに興味をもち始めた。また、水は“冷たくて気持ちいい” お湯は“温かくて気持ちいい”といった感覚を持つようになっていった。そこから暑い日には水遊びを取り入れる中で活動に氷遊びを取り入れた。プールやたらいに水と氷を入れると最初は恐る恐るの様子を見たり、そっと触ったりする子がいた。途中から触ると“気持ちいい” “冷たい”と感じるようになってきた。また、だんだん小さくなっていく氷に“ない、ない”と不思議そうに探そうとする姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

初めての氷遊びだった為率先して触らないだろうと思っていたが子どもたちは思っていたよりも喜んで遊んでいた為取り組んでよかった。また“冷たい” “気持ちいい”といった感覚を言葉で表現する子がいて、感覚の表現ができるようになったことにも気が付くことができた。氷が小さくなったことを不思議そうにする子や最初に持っていたくらい大きい氷を探す姿に、形の変化を感じられるようになった成長を感じられた。

施設名	ソラストせんじゅ保育園
施設所在地	足立区千住仲町18-6-2F
法人名	株式会社ソラスト

1. 活動のテーマ

<テーマ>

環境（様々な感触に触れてみよう（寒天遊び））

<テーマの設定理由>

身近な素材を使って色々な感触と日々出会っているが、まだ触れたことのない感触もたくさんある。
初めての感触に触れたときにどのような反応や表情を見せてくれるのかに注目したい。

2. 活動スケジュール

・7月から水遊び、シャワーが始まり、水の冷たさや感触を楽しみながら次第に水遊びを楽しむようになる。
・8月に入り風船や新聞紙絵の具遊びなど色々な感触を体感していく。
・9月5日(金)0歳児6名、保育室内にて寒天遊びを行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・寒天（赤・黄・青の食紅で色を付けたもの）
・シート
・カップ
・桶、バケツ
水遊びと同様にシートを敷いてその上に桶とバケツを用意し、慣れている環境設定にした。

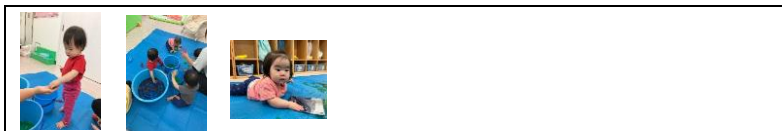
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・冷たい感触も共に感じられるように事前につくっておいた寒天を活動の直前まで冷蔵庫で冷やしておいた。室内で桶やバケツに入った寒天を手で触り、冷たい感触を体感しながら寒天遊びに興味をもつ。座りが安定していない月齢の低い子達はジップロックの上から寒天に触れて見る。
・手に取った寒天をカップに入れたり別の色を混ぜたりしながら保育者と一緒に感触遊びをする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

活動の最初は初めてのものに誘われ、バケツや桶の周りに集まり始めたこともあった。その中でも初めてが苦手な子どもは遠くから様子をうかがって覗いていた。なかなか触れてみようとしないうちには様子をみながら声かけを行い、保育者が触れてみせると近くに集まり指先でチョンと触りながら真剣な眼差しで「なんだろう?」という表情を見せていた。寒天を保育者が子どもの手の上に乗せると握り始め、手の中で「ぐにゅ」っとなる感触を楽しんでいた。また、冷たい感覚に「きゃー!」と笑顔を見せて喜ぶ姿もあった。その後保育者と一緒に寒天を手で握り感触を楽しみ、カップの中に寒天を入れて手渡すと、様々な色を混ぜて楽しむ子もいた。低月齢の子にはジップロックに入れて近くに置くと不思議そうな表情を見せながらも冷たい感覚を楽しんでいた。後半にはカップに寒天を入れると保育者が持っていたカップに移し替えたり長い子では15分以上寒天遊びを楽しむ子もいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・普段は様々なものに興味を持って触れている子どもたちであるが、今回は様子を伺う子が多かったように感じた。保育者が遊びの入り口を作ることによってその後思う存分楽しむことが出来た。
・思ったことを口にするのはまだ難しいが、喃語や指差し、表情等で自分の思いや感じたことを伝えようとしたりする姿が見られ成長を感じた。
・保育者が遊びに介入し一緒に楽しみながらも、子どもの気付きや発見を側で見守り思いを代弁し共感していくことで、一緒にやってみようという興味を持ち感触を楽しむことができた。
・今回用意した寒天が柔らかかった為、もう少し固めにしたほうが寒天の感触をより味わえたように感じた。